

温泉寺

173 段の石段の上に治癒と医療の仏陀である薬師如来を祀る温泉寺があります。下呂温泉街の中心近くに位置し、境内から街を眺めることができます。

白鷺が救いをもたらす

下呂は千年以上も前から温泉で知られています。しかし、1265 年に一時的に湯の流れが止まったと言われています。温泉が復活したのは飛騨川に毎日飛来する白鷺に村人が気付いたためとされています。鳥を追跡したところ、鳥が入浴していた新しい源泉を発見しました。その後、白鷺は空に飛び、今の温泉寺がある丘の中腹にある松の木の枝に止まりました。村人はその木の下で医療と治癒の仏陀である薬師如来像を発見し、薬師如来が白鷺の姿になっていたのだと信じました。温泉寺はこの伝説を心に刻み薬師如来を祀るために創建されました。

癒しの巡礼

江戸時代（1603-1867 年）には名湯に浸かるために年間 3 万人もの人々が下呂を訪れました。現在温泉寺本堂の下に源泉があります。本堂近くの薬師如来像からも湯が流れ出ており、その湯を体に塗ると治癒力があると言われています。

温泉寺には江戸時代の願掛けの板が数多く残されており、温泉の人気を物語っています。この板は絵馬と呼ばれており、参拝者が願い事を書き込むものです。本堂の柱のいくつかには祈祷と思われる印が刻まれています。寄付が必要な絵馬を買う余裕のない人々が柱に直接祈りを書いたと考えられています。

温泉寺の四季折々の風景

温泉寺の境内は一年中美しく、特に秋は赤や黄色の鮮やかな紅葉が見られます。毎年 11 月の数週間この寺で紅葉を祝う祭りが開催され、夕方には紅葉の木がライトアップされます。華麗な醫王閣など、通常は立ち入りが禁止されているエリアへの入場も許可されます。